

A 語句と読み

- (1) じゆし（じゅし）／幼い子ども
- (2) たちまち／とっさに・ふと
- (3) じゆつてき（じゅってき）／はっとしておそれ、はらはらすること
- (4) あわれみ、いたみ悲しむ心 /★四端の一つ目
- (5) 芽生え・いとぐち・始まり /×「はし・きわ」ではない
- (6) 両手両足。からだ。

B 句法

- (7) 再読文字「将」／「まさニ〜ントす」＝今にも〜しようとする
- (8) 再読文字「猶」／「なホ〜ノごとシ」＝ちょうど〜と同じようだ /★③の「将」と混せて出る
- (9) 〜ではないのである（打消・否定）
- (10) もし〜ならば（仮定条件）
- (11) 已然形（「知れ」）に接続し、順接の確定条件（〜する

と・〜ので）を表す。

C 何を指すか

- (12) 他人の不幸を見過ごせない心。（十四字）
- (13) 子を助けようとするのは、①その子の父母と親しくなるためでも、②郷里の人や友人にほめられるためでも、③泣き声を不快に思ったためでもない、ということ。
- (14) 四端（惻隠・羞惡・辞讓・是非の心）
- (15) 四端を擴めて充たすこと（おし広げて十分に発揮すること）

D 口語訳

- (16) いま、ふと幼い子どもが今にも井戸に落ちようとしているのを見ると、
- (17) あわれみの心がない者は、人ではないのである。
- (18) 人にこの四つの芽生えがあるのは、ちょうど人に両手両足があるのと同じことである。
- (19) もしよくこれを十分に発揮できるなら、天下を安らかに保つことができる。

E 内容・記述（解答例）

(20) 惻隠＝仁／羞惡＝義／辭讓＝礼／是非＝智 / ★毎年ここから出る

(21) 人には生まれつき善い心（人に忍びざるの心）が具わっている、ということを証明するため。

(22) 手足と同じように、人であれば誰にでも生まれつき具わっているもの、ということ。

(23) 父母に仕えることさえもできない、と言っている。

F 思想・文学史

(24) 性善説／孔子

(25) 戦国時代

(26) 荀子（じゅんし）

【現代語訳（全文）】

孟子が言うには、人には誰にでも、他人の不幸を見過ごせない心がある。……

人には誰にでも他人の不幸を見過ごせない心がある、と言えるわけは、いま、ふと幼い子どもが今にも井戸に落ちようとしているのを見れば、誰でもはっとしておそれ、あわれみいたむ心が起こるからである。（それは）その子の父母と親しくなろうとするからではない。郷里の人々や友人からほめられようとするからでもない。その泣き声を不快に思っただけでそうするのでもない。

このことから考えてみると、あわれみの心がない者は、人ではない。はじにくむ心がない者は、人ではない。ゆずる心がない者は、人ではない。よしあしを見分ける心がない者は、人ではない。

あわれみの心は、仁の芽生えである。はじにくむ心は、義の芽生えである。ゆずる心は、礼の芽生えである。よしあしを見分ける心は、智の芽生えである。人にこの四つの芽生えがあるのは、ちょうど人に両手両足があるのと同じことである。……

およそ四端が自分にそなわっている者が、それをみなおし広げて十分に発揮することを知れば、ちょうど火が燃えはじめ、泉がわきはじめするように（さかんになる）。もしよくこれを十分に発揮できるなら、天下を安らかに保つことができる。もしこれを十分に発揮しなければ、父母に仕えることさえもできない。